平成28年度 生活・自立支援キャンプ事業

子ども生き生き体験学習③

1 趣 旨 児童養護施設との連携を深め、様々な体験活動をとおして、子供たちの 豊かな情操を養い、自立を支援する。

2 期 日 平成28年8月23日(火)~25日(木) 2泊3日

3 対象者 児童養護施設「若葉学園」に入所している子供

4 募集定員 無し

5 参加者 8人(小学生6人 若葉学園指導者2人)

6 指 導 者 垂水市漁業協同組合職員 国立大隅青少年自然の家職員



7 日程と主な活動

《1日目》	9::	30 11:	00 12:	00 13	:00 16:	00 20	:00 2	1:00
8			入 所		《体 験》	《生 活》	《体験》	
月		若葉学園か	オリエン	昼食		夕食作り		
23		らバス移動	テーション	(レストラン)	草スキー	タ 食	自主学習	まとめ
			室内ゲーム		アスレチック	後片付け		就寝
(火)						シャワー		

《2日目》	6:15 7	:00 8	:40 12	2:00 13	:30 16:	30 20	:00 21	:00
8		《生 活》	《体 験》		《体 験》	《生 活》	《体験》	
月	起床	つどい		昼 食	マウンテンバイク	夕食作り		
24		朝食	万滝ハイキング	(弁当)	※途中雨のため、	タ 食	自主学習	まとめ
日		(レストラン)		休 憩	室内ゲーム	後片付け		就寝
(水)		準備				シャワー		

《3日目》	6:15 7	:00 9:	10 9:	: 40 12	:00 12	:40 13	3:15
8 月 25	起床	《生活》 つどい	垂水市漁協	《体 験》 垂水市漁協	昼食	アンケート	垂水市漁協から
日 (木)		リログラン (レストラン)	へ移動	カンパチ養殖場 漁船乗船体験 えさやり体験	(漁協食堂)	ふりかえり 別れのつどい	若葉学園へバス移動

8 事業運営について

- (1) 姶良市の児童施設「若葉学園」と連携して、施設で生活する子供を対象に体験活動を行う中で、 子供たちのあいさつや返事などの基本的生活習慣の確立や自立心の育成に貢献できるよう心がけた。
- (2) 万滝ハイキングやマウンテンバイクなど、未経験の活動を行う中で、子供たち自身が達成感や満足感を味わうことができるよう工夫した。
- (3) 垂水市漁業協同組合の協力の下、漁船乗船体験や養殖カンパチへのえさやり体験などを行い、関係者の工夫や努力を感じ取ることを通して、キャリア教育の一端となるよう工夫した。

(4) 子供たち一人一人が夏休みの宿題や課題に向かうことができるよう に、毎晩、自主的に学習する時間を設定した。

9 事業の実際

- (1) 草スキーでは、ほとんどの子供が急傾斜面を楽しく滑る中、一人滑ることに抵抗していた子供がいたが、仲間に誘われ勇気を出して滑ることができるようになった。その際には、満面の笑顔を浮かべていた。
- (2) 万滝ハイキングは残暑の中での実施となったが、子供たちは元気よく歩き、休息を含め、3時間20分で往復することができた。(通常、所要時間4~5時間を想定)
- (3) 通常、施設では自転車(マウンテンバイク)に乗ることがないため、 子供たちはマウンテンバイクの体験を非常に楽しみにしていた。同じ コースを飽きることなく何回も走り回っていた。うまく乗れなかった 子供も時間がたつにつれ、上手になっていく自分に満足していた。
- (4) 夕食作りでは、子供たち自身が作業を分担し、野菜を切ったり炒め たりすることができた。また、後片付けも丁寧に行うことができた。
- (5)漁業体験活動の中で、養殖カンパチにえさをあげたときに勢いよく 群がってくるカンパチの様子に非常に驚いていた。マイナス15℃の 冷凍庫に入ったときには、外気との温度差約50℃を体感することが できた。

10 参加者の感想

- 〇 ぼくが今日楽しかったことは、万滝ハイキングです。なぜかというと、万滝の滝を見るために頑張って登って、滝が見えたので良かったです。(男児)
- ぼくは、初めて漁船に乗りました。カンパチのえさやりをして気付いたことがあります。カンパチにえさをやると、バシャバシャと飛び跳ねていました。(男児)
- 集団生活を通して、何をするにしても指示をする者やリーダーの存在が不可欠あると同時に、自分のことだけでなく周りの状況を見て発言や行動ができる協調性も、今後養っていかなければならないと感じました。(施設指導者)

11 成 果

- 児童養護施設の職員との事前打合せ等の中で、本事業の目的と内容について共通理解を図ったことから、子供たちや保護者の実態を考慮した活動を実施することができた。すべての活動が初めての経験で、子供たちは意欲的に活動していた。
- 今回参加された施設を含め他施設に対し、子供たちの基本的生活習慣の確立や自立心の育成の ために体験活動の必要性を引き続き呼びかけていく。













